４つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小手澤の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.594-595
半日雨だったので、座禅体験をさせてもらいました

【定例活動報告】

「当会が活動拠点としている相模原市緑区相模湖周辺は、世界有数の巨大都市である東京から最も近い山間部であり、山容も険しく緑が大変豊かな地域です。東京から電車で訪れると、高尾駅を過ぎたあたりから急に険しい山肌が迫り、風景が一変する様子に驚かされます。そもそも日本の国土はその２／３に及ぶ広大な地域を山間部が占め、そこでは遥か昔から自然の恵みを利用して自給自足する山の民の生活が営まれていました。そんな山の生活も戦後大きく変化しています。今年の7月、国連のグテーレス事務総長は「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」というメッセージを発信し、サステイナブルな社会の実現がいよいよ喫緊の課題となってきています。都会での便利な生活は、高度に発達した社会インフ

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

ラに依存していて、それなしではたった一日ですら生きることができません。便利な生活は資本主義のおかげですが、資本主義が駆り立てる生存競争によって、生態系や大地の鉱物などの自然の富が収奪の対象となってしまっています。サステイナブルな社会の実現のためには、自分たち一人ひとりが自然の一部であることを認識し、自然を共有財（コモン）として皆で守り育むことが大切です。そして、自然は常に地域の人間の生活と共にあります。ですので、緑のダム北相模には、相模湖地域の豊かな自然の中での経験を通じて、その技術や、自然の豊かさや厳しさ素晴らしさを実感して皆に伝えていくこと、そして、人間の生活と自然との関わりの大切さや難しさや素晴らしさをより深く理解するために、地域社会と積極的に関わっていくことを期待します。

永井　広紀（本会理事・小原宿活性化会議）

【定例活動報告】知足の森

今回は井の頭公園のリス園に送るための木を切ることと、いつもお世話になっている長福寺付近のお墓の整備をしました。午前中は木を切りました。僕は今回初めての参加でした。そのため、森の神様への挨拶のやり方を学びました。午前中の活動のみでも難しいことがたくさんありました。その中でも1番難しかったことは受け口を切ることです。斜めにノコギリを入れることはとても難しかったです。結局途中で諦めてしまいました。しかし、木がミシミシという音を立てながら切れた時の爽快感は忘れられません。また、木を切るための道具はたくさんありました。たくさんの道具が必要で驚きました。午後は長福寺のお墓で伸びきった草を刈りました。いつもお世話になっているので感謝の気持ちを持って刈りました。刈り終わると草の山ができていたので驚きました。今回の活動はとても充実した活動でした。もっと森の活動に参加して道具を使いこなせるようにしたいです。

青木　悠太（GTE LAB 中学１年男子）

私は今日、初めて森に行きました。森に入った経験もあまりなかったので、まず驚いたのは森の斜面でした。油断していたらすぐ下に落ちてしまうくらいとても傾斜が急で、上に登ろうと手で何かしらを掴もうとしても土や石ばかりでなかなか登れませんでした。だけどみんなに助けられアドバイスをもらいながら無事上まで登りきりました。

そして木を切りました。先生に受け口、追い口の順序や角度を学びながら慎重に切り終わると木を倒す作業に入りました。みんなで滑車に繋がった紐を引っ張りましたが、木が傾いてもなかなか倒れませんでした。足場が悪くて力もあまり入らないのです。さらに、他の木々と倒れる方向が重なってしまい、何度か引っ張る方行を変えてようやく木を切り倒せました。

初めて木を切ってみて、思った以上に体力が必要なのと木を切るのに色んな工夫があることが分かりました。次行く時は今回学んだことを少しでも活かせられればいいなと思います。

松本　琴葉（GTE LAB 中学２年女子）

桜井尚武の森のコラム

「ブナ(*Fagus crenata*) その概要 」

図1　ブナ

20111003　水上輝葉峡

図2　ブナ果実

20110818　水上群馬

図3　落下した果実と開いた殻斗

20111003　輝葉峡水上

図4　ブナ林

20090628　こんろく峠水上

ブナ科の落葉高木で樹高30m以上、直径1m以上になる大型木本(1.7mという記載があります)。一般的には天然林の高齢樹林でも樹高25m、直径60~80㎝程度の場合が多い。葉は薄い紙質で波状鋸歯といわれる波状の丸みを帯びた、鋸の歯のようには尖らない葉縁で、葉の両面や新枝は無毛です(図1、2)。

雌雄同株で花は雪解け後の5~6月に咲き秋10月頃に熟します。ブナの果実は2個が1つの殻斗（かくと）と言われる厚い丈夫な総苞片に包まれて短い果柄で上向きに成熟期を迎え(図2)、熟すとこの殻斗が十文字に割れて果実が樹下に落ちます（図3）。果実は1.5cm程度の大きさで3つの稜を持っています。この形が蕎麦（ソバ）の実に似ているのでソバグリという呼称があります。アクは無くそのまま食べられます。山で拾える国産のナッツですね。クマやリス、ネズミ類の大事な食糧です。豊作年は5～7年に一度来るくらいです。ところでソバという語には「近く」という意味以外に「尖ったもの」という意味があります。蕎麦やブナの果実の稜をソバと呼んだものです。谷間に生える植物にソバと名付くものがありますが、渓谷は切り立って崖≒尖っているという思いからこの場合はソバ地に生えるという意味を込めているのでしょう。

本種は北海道南部の黒松内低地帯から九州鹿児島県の高隅山に至る冷温帯の山地帯上部に相当する所に分布します。緑のダム北相模の活動域周辺では山地帯上部に相当する標高600m～1,200m辺りの適潤性土壌を中心に比較的広範囲にみられ、高尾山の山頂部にもあります。

1958年に策定された木材生産力増強政策で、広範囲の天然林が材木生産効率の高いスギ・ヒノキを主とする針葉樹に植え替えられました。そのため自然破壊が国土規模で進んだとされ、これ以上天然林を人工林に代えてはいけないとする自然保護運動が起こる等この事業は多くの批判を受けました。自然林に最も多かったブナはこの保護運動のシンボルになりました。道路付近に見られるブナ林のほとんどは小面積で残った林ですがその片鱗の1つを図4に示します。下層は雪の多い地方によくみられるチシマザサに覆われています。

桜井　尚武（本会、会員）

【活動報告】 こがねいの木でブックスタンドをつくろう

今回の学祭に合わせて実施したイベントのテーマは「こがねいの木でブックスタンド作り～生活に木を取り入れよう～」です。小金井市のシンボルツリーとしてあったチシャノキを伐採したのに伴い、その材木をブックスタンドの一部として再利用することが目的です。今回の学祭ではブックスタンドの設計から当日の運営まで全て私たちが担当しました。自分たちで何もないところから一つ一つ考え実践していくのはとても大変だったし難しかったです。それでもだんだんと形になるこのイベントについて考えていくのは面白かったです。

当日はまさに波瀾万丈でした。流れとしては、１回50分につき5人参加が全部で６回あります。50分という時間はブックスタンドを作るには短く１回目の参加者が終わらないまま、２回目の参加者が来てしまうというような状況になってしまっていました。それでも、参加してくれた子たちのブックスタンドを作り終わった後の嬉しそうな表情や「ありがとう！」という言葉を聞くのはすごく嬉しかったです。

とてもクタクタになったし波瀾万丈だった学祭ではありましたが、私たちにとっても参加してくれた子たちにとっても貴重な体験になったと思います。この経験を次のイベントなどにも活かしていきたいです。　　熊谷　碧（GTE LAB 中学２年女子）

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
パタゴニア
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン 記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　patagonia